

「ふくしまからはじめよう。『食』と『ふるさと』新生運動」 会津地方かわら版

会津地方推進本部(福島県会津農林事務所)

平成27年12月1日(火)発行

目次

- 1 頑張る農業者の取組紹介
- 2 会津農林事務所の取組紹介
- 3 会津農林事務所からのお知らせ



「ふくしまからはじめよう。『食』と『ふるさと』 新生運動」会津地方かわら版について

平成25年12月20日に「ふくしまからはじめよう。『食』と『ふるさと』新生運動」会津地方推進本部が設立されました。

会津地方推進本部では、会津地方の農林業者の取組や、各部・所の取組、各種研修・イベント等の情報を発信するため、会津地方かわら版を発行しています。

頑張る農業者の取組紹介

日本一のカスミソウ栽培を目指して

昭和村 栗城 久登さん

昭和村のカスミソウ農家、栗城久登さんの取組を紹介します。栗城さんは今から13年前、47歳の時に病気の両親の面倒をみるために会社を退職し、千葉県からUターンして新規就農しました。

その当時、昭和村ではカスミソウの新規就農者を募集しており、栗城さんは第1号として応募。前カスミソウ部会長の下で、畑作り～定植～花の出荷等に関する1年間の研修を受けた後、農

地を借り受け、約10棟の栽培を開始しました。しかし、当初5年間は収入がほとんどない状況だったそうです。

その後、面積を順次拡大し、現在は60棟のハウス、80aで宿根カスミソウを栽培するまでに至り、スタッフ3名を雇用し、経営は順調に推移しているとのこと。

出荷時期は7月から11月中旬で、その期間は早朝から収穫作業を行い、量が多いときは夕方近くまで出荷調製作業を行っています。年間約10万本のカスミソウを集出荷貯蔵施設(雪室)を経由して全国28市場へ出

荷しています。

栗城さんは現在、JA会津みどりかすみ草専門部会研究部の部長を務めていらっしゃいます。

栗城さんは、「カスミソウを花束の脇役ではなく、主役にしてみたい。染色した鮮やかな色合いのカスミソウを利用して、カスミソウだけの花束を作って主役としたい。」と抱負を語ってくださいました。

栗城さんは、冬はたかつえスキー場のたかつえスキースクールで校長を務めており、スタッフ3名も同スキースクールのインストラクターを務めています。冬はスキーの講師、春から秋にかけてはカスミソウ栽培に携わり、昭和村の自然にマッチした生活・経営を実践しています。



カスミソウを持つ栗城 久登さん



染色した色鮮やかなカスミソウ



会津農林事務所の取組紹介

○ 苗木のスクールステイが始まりました

苗木のスクールステイが10月28日に県内の先陣を切って、猪苗代町立吾妻小学校、喜多方市内全小学校（17校）で始まりました。

この取組は、平成30年春季に福島県で開催する「第69回全国植樹祭」関連行事として、子どもたちが各学校で苗木を育てるものです。子どもたちの森林づくりへの関心を高めると共に、森林や自然環境に対する理解を深め、本県の豊かな森林を未来へ引き継ぐことを目的としています。



猪苗代町立吾妻小学校3, 4年生

昨年度、県内3つの小学校（うち会津地方は、会津若松市立大戸小学校および川南小学校が該当）がモデル校に指定され、苗木のスクールステイを先行実施してきましたが、これをモデルケースとして今年は県内全域に参加校を拡大し、会津地方では25の小学校が実施する予定となっています。

当日は、吾妻小学校と「きたかた豊かな森林づくり」会場において、児童がコナラやトチなどのドングリをポットに植えつけました。今後、各学校においてポットへの水やり等の育成管理を行い、平成28年度以降に地域緑化活動や全国植樹祭で植樹することとなります。

今年度苗木のスクールステイを実施する小学校25校

○会津若松市：大戸、川南、門田

○喜多方市：喜多方第一、喜多方第二、松山、上三宮、喜多方第三、豊川、関柴、熊倉、慶徳、熱塩、加納、堂島、塩川、姥堂、駒形、山都、高郷

○磐梯町：磐梯第一

○猪苗代町：翁島、緑、吾妻

○会津坂下町：坂下東

福島県森林保全課HP

<http://www.pref.fukushima.lg.jp/site/syokujusai/school-stay.html>

【森林林業部】



喜多方市内小学校17校の代表

○ 奥会津地方意見交換会・現地視察を開催しました

去る11月11日、奥会津地方の農林業及び地域振興について話し合うため、奥会津4町村（柳津町、三島町、金山町、昭和村）と会津農林事務所による「奥会津地方意見交換会」が開催されました。

奥会津4町村からは各町村が抱える課題や県に対する要望が出されるなど、積極的な意見交換が行われました。

次に参加者全員で奥会津地域において特徴的な取組をしている事業者を訪問しました。訪問したのは三島町の（有）会津地鶏みしまやと金山町の（株）奥会津金山大自然。

（有）会津地鶏みしまやでは、衛生管理に特に力を入れ、生育段階ごとに鶏舎を分けるなどこだわりの飼育方法で毎月1,200羽を出荷しています。（株）奥会津金山大自然では金山町産の野菜を使い、フリーズドライ等の加工品を製造し、地域の特産品の開発に取り組んでいます。



奥会津地方意見交換会の様子

【企画部】

○「ふくしまの農育」推進事業 田んぼの学校を実施しました

去る10月23日に、会津美里町立新鶴小学校5年生児童24名と「ふくしまの農育」推進事業田んぼの学校の一環である、稲刈りを実施しました。

5月に児童たちが植えた蒼々とした苗は、黄金色の立派な稲穂に成長しました。JA会津みどり職員ならびに会津宮川土地改良区職員による指導の下、児童たちはカマを使用して稲刈りに挑戦です。

最初は慣れない手つきでおそろおそろ刈り取っていた児童たちですが、次第にコツを掴んで黙々と作業を進めていきます。皆さん、初めての作業なのになかなかの腕前です。刈り取った稲はお日様に照らされ、秋の香りを放っていました。

手刈りが終わると、いよいよコンバインの登場です。取り入れ口に稲の束を入れると、稲はコンバイン後部へ運ばれていき脱穀され、カッティングされた稲わらは勢いよく圃場へ排出されます。その後、何人かの児童が交代で実際にコンバインに乗り、地権者による補助の下、刈り取りを体験しました。

今回の体験により、「将来は農業をやりたい」と志を立てた児童もいたようです。



カマを使って稲刈りに挑戦する児童



カッティングされた稲わら

【農村整備部】



地元の方の指導を受けコンバインで刈り取りを体験する児童

○「おいしい ふくしま いただきます！」キャンペーンを開催しました

10月11日、今年度最後の「おいしい ふくしま いただきます！」キャンペーンを、第10回湯川村新米祭にて実施しました。今回PRしたのは会津産新米、果物(リンゴ、ナシ)、ヨーグルト。

うつくしまライシーホワイトの瓜生恭子さんにご参加いただき、会津産新米のおいしさをPRしました。昼と夜の温度差が大きいこと、水がおいしいこと、土壌が豊かで刈り取り直前まで栄養や水分が供給されることが会



新米をPRするライシーホワイト

津産米の美味しさの理由です。

試食では會・マチエールの会津産コシヒカリをつなぎにしたパン&会津農林高校のイチゴジャム、会津中央乳業のべこの乳ヨーグルト&やまひろファームのフルーツソースを提供したところ、雨にもかかわらず多くの方がキャンペーンブースを訪れてくださいました。

県産農産物の消費動向等に関するアンケートへ回答してくださった方先着400名様へは会津坂下町産のリンゴとナシをプレゼントしました。

多くの方においでいただき、好評のうちにキャンペーンを終了することができました。

【企画部】



会津農林事務所からのお知らせ

○ 大豆・そば・小豆等の穀類は、

出荷・販売前に必ず放射性物質モニタリングの結果を確認しましょう！

福島県では、農林水産物の安全性を確保するため、緊急時環境放射線モニタリング検査（以下、「モニタリング」という。）を実施しております。

大豆、そば、小豆などの穀類は、産年ごと旧市町村ごとにモニタリングを実施し、出荷可能と判断されて初めて販売できるようになります。

福島県水田畑作課のホームページに、最新の「旧市町村毎の出荷可否状況」や「出荷可否マップ」が掲載されていますので、出荷・販売前に必ず確認してください。

<http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36035b/daishinsai-kokurui-monitoring-shinchoku-27.html>

また、旧市町村の範囲など不明な点がございましたら、下記までお問合せください。

福島県会津農林事務所 農業振興普及部 電話:0242-29-5306

福島県における農産物の放射性物質検査体制(主な違い)

農産物の種類	米	大豆、そば、小豆 麦類等の穀類	野菜類・果実類
検査区分	全量全袋検査	モニタリング検査	モニタリング検査
検査単位	全ての量・玄米 (30kg 袋)ごと	<u>旧市町村</u> (品目別)	市町村(品目別)
検査時期	出荷開始前	<u>出荷開始前</u>	原則として 出荷開始前から 出荷初期段階
NaI等による自主検査での販売	×	<u>×</u>	○ (主要品目以外)

※ 上記以外の品目(水産物、きのこ・山菜類、畜産物ほか)は、それぞれ別にモニタリング検査体制を取っています。

※ 大豆には、青豆(青大豆)、黒豆(黒大豆)なども含まれます。そばは、夏そばと秋そばに区分されます。

※ 米については、一部「地域の恵み安全対策協議会」が管理するフレコンバッグ等ごとの検査もあります。

※ 穀類の販売は、モニタリング結果の公表日(出荷可能と判断された日)以降となります。

【農業振興普及部】

【ご意見・お問い合わせ】

会津地方推進本部事務局

(福島県会津農林事務所企画部地域農林企画課内)

〒965-8501

福島県会津若松市追手町7番5号(会津若松合同庁舎2階)

TEL (0242)29-5369 FAX (0242)29-5389

E-mail: kikaku.af04@pref.fukushima.lg.jp

